

## 1) 政策的動向

### 2040年にむけた高等教育のグランドデザイン（答申）

「高等教育機関がその多様なミッションに基づき、学修者が「何を学び、身に付けることができるのか」を明確にし、学修の成果を学修者が実感できる教育を行っていること。このための多様で柔軟な教育研究体制が各高等教育機関に準備され、このような教育が行われていることを確認できる質の保証の在り方へ転換されていること。（P.3）

…教学マネジメントの確立に当たっては、大学が、学生の学修成果に関する情報や大学全体の教育成果に関する情報を的確に把握・測定し、教育活動の見直し等に適切に活用する必要がある。（P.30）

### 平成30年度私立大学等改革総合支援事業

タイプ1-⑥ 卒業後アンケート「卒業生のキャリア（就職・進学）の状況等に関する卒業後のアンケート調査やインタビュー等を実施していますか。」

### 短期大学評価基準

基準II-A-8 「学生の卒業後評価への取り組みを行っている。」

## 2) 自己点検・自己評価報告書から見た実態調査

WEB上に確認できた253校の自己点検評価報告書から卒業生調査の実施状況を確認（筆者らによる）

「勤務先・実習先」への調査 224/256（88.4%）「卒業生」への調査・・・117/253（46.2%）

調査自体は実施されているが、「卒業生を対象としたアンケート調査の回収率は特に悪く、自己点検評価報告書の中で言及している短大も多数」 → 卒業生調査の実施に関する様々な課題が挙げられている。

## 短期大学の自己点検・自己評価に資する卒業生調査の研究開発のため、そのニーズを実施担当者によるインタビューから明らかにする

調査方法：集団面接法（1回あたり90~120分）

調査対象：卒業生調査の担当教員職員を中心（10短期大学）

\*各短期大学の自己点検・評価報告書や事前のアンケート調査の結果に基づき選定

調査内容：卒業生対象の調査内容のニーズ、卒業生情報の有無、校友会・同窓会組織、実習先や就職先との連携等

### 1) 卒業生調査の実施状況

就職部門が主体。同窓会や教員が独自に実施するケースもある。また学校内でのイベント時に行う例もあった。

### 2) 卒業生に関する個人情報の収集

主に在学時の連絡先を利用。卒業後の状況（就職先や転居に関する情報等）をどの程度把握しているかについては学校間の差が大きい。卒業生の最新の情報は、担任をしていた教員が把握しているケースも多く、卒業生調査の依頼をSNS経由で行う事例もあった。卒業生の訪問時や友人等から情報を得ている場合もあり、インフォーマルな形で卒業生に関する情報が集められている傾向にある。

### 3) 調査内容

在学時の学習経験、現在の仕事を行う上で役立っていること、在学時に学んでおきたかったこと、現在困っていること、現在の状況や連絡先。記名式で行われているケースも多い。

### 4) 活用方法

授業改善やカリキュラム改善のための資料、卒業生の現状把握、一部の短大では教務データとのリンク、認証評価の基礎資料、私立大学等改革総合支援事業へ応募するために活用

### 5) 活用における課題

卒業生調査の結果の活用事例は極めて少ない。また、資格関係のカリキュラムの制約上、卒業生調査で示された卒業生の意見を反映させられない例もある。

### 6) 卒業生調査全体の課題

回収率が低いことに加え、短期大学での学習経験に肯定的な層が回答するため調査結果が上振れする。卒業生調査の回収率を向上させる仕組み作りは難しく、さらに短期大学での学習経験が否定的な者から情報を得るのはより困難であるという認識が見られた。また、卒業生調査の費用負担に加え、在校生への調査と比べ手間もかかり、人的負担も課題として挙げられた。

## ①質的アプローチの必要性

教育改善や学習成果の評価に資する情報を得るにあたり、インフォーマルな情報が重要であるという事例がいくつかの短大から示された。

## ②政策ニーズと現場ニーズの乖離 何のための評価か？の検討が必要

教育改善や評価だけでなく、いずれの短大においても「卒業生が元気にしているか、困ったことはないか」といった点を把握したい意識が強かった。

○黄海玉（短期大学基準協会）○宮里翔大（桜美林大学・院）  
堺完（大分大学）山崎慎一（桜美林大学）

# インタビュー調査から見た 短期大学における卒業生調査の実施状況とその課題



BACK  
GROUND



RESEARCH  
PURPOSE



RESEARCH  
METHOD



KEY FINDINGS



DISCUSSION  
POINTS